

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル 笑明かり・咲明かり(笑)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392200081-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392200081-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年1月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「生きてるって素敵」の理念の下、自由に過ごしなが互いに助け合い、力の発揮出来るように支援している。ご本人・ご家族の協力を得て双方の願いを叶えられるように努めている。日頃から季節感と昔ながらの行事を大切に、壁画・食べ物・ゆず湯等している。ドライブや月に1回の遠足・モーニング・ランチ・買い物等での外出もしている。春祭りや運動会の行事はご家族や地域の方と共に楽しめるように努め、交流を大切にしている。民謡等ボランティアに来て頂いたり、地域の行事に参加させて頂いている。又、定期的に研修を行い職員のスキルアップに努めている。常に1人1人の思いを大切に寄り添いその人らしくよりよい生活の実現を目指している

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

関連事業所の開設時からの基本理念でもある「生きてるって素敵」という思いを、利用者や家族とも共有できるような支援を行うとともに、家族にも利用者のホームでの生活を支援してほしいという、ホームからの働きかけが行われている。取り組みを通じて、関連事業所と合同で開催している運動会の際には、多くの家族の参加が得られており、ホームの基本理念への理解が得られている。ホームでは、日常生活の中でユニット毎の支援に取り組んでおり、職員間で日常の食事メニューを考えたり、外出行事の計画を考える取り組みが行われている。また、利用者がその人らしく生活できるように、定期的なカンファレンスを通じた、一人ひとりの希望や意向等の把握が行われており、利用者の中には個別の外出が実現する等、ホームでの生活を楽しくもらえるような取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎月のミーティング時に唱和し、勉強会で確認し合っている。理念に基づいたケアができるようにしている。1人1人の思いを大切に、その人らしく過ごして頂けるように日々のケアで実践に努めている。	法人共通の理念である「生きてるってすてき」と思えるような支援を目指すように、ユニット単位での取り組みが行われている。理念の唱和を行っている他にも、パンフレットへの掲載を通じた、家族への説明も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りの休憩所としての利用、日頃の散歩・ゴミ捨てや外出時挨拶、春祭り・運動会・もちつき等の行事に参加して頂き交流を深めている。民謡・大正琴・落語・ギター等のボランティアの慰問もある。	地域で行われている行事にホームからも参加しており、交流につなげている。ホームで開催している餅つき大会の際には、地域の方の参加もあり、ホームを知ってもらう機会につなげている。また、ホームの交流スペースを活用したカフェを開催している。	ホームの交流スペースを活用した取り組みは、継続的なテーマでもあったため、開催しているカフェの取り組みが地域の方に浸透することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り・運動会・会議に地域の方等に参加頂いたり、外出先で交流を通じて認知症の理解と支援方法を深めて頂ける様努めている。実習生の受け入れ時、プライバシーに配慮し認知症の理解を深められるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、町内・市役所・ご家族・ご本人に参加して頂いている。自己紹介時にテーマを決めて話す事で、話しやすい雰囲気作りをしている。活動報告等を行い、質問・意見・要望を受けてサービス向上に活かしている。	会議の際には、ホームの細かな運営報告が行われており、出席者に現状と取り組みを知ってもらう機会につなげている。また、家族に交代で出席をお願いしており、家族にも会議に参加してもらうように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議等に参加して頂き、意見交換を行っている。日頃の連絡は、主に管理者とケアマネジャーが行い、協力関係を築いている。	市内の介護事業所が集まる連絡会には、ホームからも職員が出席しており、情報交換等の機会につなげている。また、地域包括支援センター職員とも併設の事業所と合わせて情報交換等に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で理解度を高めると共に、職員同士で話し合いながら身体拘束の無いケアに取り組んでいる。館内の移動は自由で、思い通りに過ごしている。玄関の鍵は交通量が多い為施錠している。	ホーム内を利用者が自由に移動できるように、職員間での見守り等に取り組んでいる。また、職員の経験年数等の段階に合わせた研修会の実施が行われており、職員の振り返りと資質向上に向けた取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で学んでいる。ミーティング時に不適切なケアや異常がないか確認したり、入浴時等に傷の有無、表情や気分の変化等日頃から観察している。職員間で情報交換し、見過ごされる事の無いように虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度・法的な知識については理解している人は少なく、勉強不足を感じる。今後の為学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者がご家族・ご本人に不安や疑問点を伺いながら1つ1つ説明をして理解を求めている。解約時は管理者・リーダーで密に連携を取り、話し合いを行っている。ご家族とコミュニケーションを大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人やご家族とコミュニケーションを図り、家族会・行事・会議・面会時等に要望や意見を聴き、それらを反映するように努めている。双方の要望・意見は申し送りや連絡ノートを使用して職員間で共有している。	家族会や行事の際には、家族にも案内を行っており、交流につなげている。定期的な面談の機会をつくりながら、要望等の把握につなげている。また、便りの発行の他にも、今年度からブログを始めており、ホームを知ってもらう取り組みが行われている。	定期的な便りの発行が難しい状況でもあったこともあり、ブログを活用する取り組みを始めている。家族にも知ってもらうことで、ホームの取り組みが継続することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング・年に2回個人面談が行われ、意見が言える環境になっている。日々のケアや行事の内容等、職員のアイデアが多く反映されている。又、人事異動や入居や退居時等、管理者と話し合いを重ねている	毎月のユニット会議を通じて出された現場職員からの意見等については、関連事業所と行われているリーダーミーティング等へあげられており、運営へね反映につなげている。また、管理者による個別面談の機会がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談で1人1人の状態を把握している。その際、自己を振り返りながら、目標を設定し、向上心を持って働ける環境作りをしている。3か月に1度ユニット内で、年に1度法人全体で食事会がありリフレッシュを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クラス分けをして内部研修を行っている。外部研修は年に1度は事業所負担で行ける。案内の掲示、事業所から勧められる。研修後は職員全員へ紙面で報告が行われたり、ユニットで発表等知識向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ施設内では、勉強会や行事等で意見交換を行い親睦を深めている。外部研修を通じ同業者と意見交換を行っているが、継続して行われていない。今後、積極的に関係を深めていきたい。尾張地区のネットワークがあるも参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添いながら個別でゆっくり話が出る環境を作り、笑顔で接している。早期に信頼関係を築けるように努め、不安や要望がないか汲み取り、少しでも不安を取り除き想いを言えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい環境作りに心掛け、関係を築けるようにしている。ご家族の心配事・要望・想いに耳を傾けて、安心して頂けるように努めている。又、ご本人とご家族の意見を尊重している。職員間で情報共有している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の想い・希望を伺い、管理者・職員で連携を取り、他のサービスであっても、今その方が必要としている支援ができるように努めている。利用前に面会に行き、今必要なサービスを把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と共にできる事を考えよりよい暮らしが送れる様にしている。人生の先輩として教えて頂く事も多く、励まし・協力する事で互いに感謝しもちつもたれつ関係を築いている。家族のような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等近況報告をすると共に意見を伺っている。よりよい関係作りを心がけている。ご家族の意見を聞きながら、共にご本人を支えていくよう努めている。行事や外出等ご家族と共に過ごす機会がある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店・美容室・病院等に行っている。友人と外出や、ご家族と美容室や外食・外泊する事があり、気軽に立ち寄り外出が出来るように心がけている。又、思い出の場所へ行く事もあり、今までの繋がりを継続できるように支援している。	利用者の入居前からの友人、知人との交流を継続している方や行きつけの美容院への外出を継続している方もいる。また、家族とホームの交流スペースで過ごしている方や、買い物や外食の他にも自宅で家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係に配慮し席を決め、全員が座れて見渡せるようになっており声を掛け合えるようにしている。日常的な場面で支えあえる関係が出来るように職員も輪の中に入って孤立しないよう関係作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご本人、ご家族が困らないように、いつでも相談できる話しやすい環境作りに努め、細かく状況提供が出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情・会話等から個々の想いや要望等の把握に努めている。常に「本人はどうか?」と考え、その人らしくを心掛けている。要望は、ミーティング等で共有し、必要時は介護計画に入れ、実現できるように努めている。	職員は、担当制を活用しながら、利用者の意向等の把握が行われており、毎月のユニット会議を通じたカンファレンスの際には、利用者全員に関する検討が行われている。また、アセスメントについても、独自の様式を活用しながら定期的な見直しが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートやご本人・ご家族から情報収集を行い把握に努めている。これまでの暮らしを大切に、継続できる事は行い、ご自宅にいるような環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄記録を付けたり、表情や行動等から心身の変化を観察している。日々の変化を見逃さず職員間で情報共有に努めている。「1人1人の力の把握。又、発揮できる」を目標に、ご自分で行えるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望・要望を交え、月1回のミーティングで介護計画に沿って現状を話し合い、見直し・変更をしている。状態変化や意見やアイデアが出た時は、その都度話し合いながら現状に合わせた計画を作成している	介護計画の見直しについては、4か月毎から6か月毎に移行を行っており、毎月のカンファレンスを通じたモニタリングを実施している。また、個人記録用紙には、利用者毎の介護計画の内容が記載されており、日常的なチェックにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画の内容を記載して、チェックしている。日々の様子・変化・気づき・ご本人の言葉は細かく記入し、読む事にも努めている。申し送り等をして情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の状態が変化していく中で、その都度ご本人・ご家族からの要望に応えられるように、管理者・職員と話し合いながら、柔軟な対応が出来るように心がけている。まだ行った事がない事でも叶えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや喫茶店・ゴミ捨て等地域を利用して関係作りをしている。全員の地域資源の把握はできていないが、ご本人が利用していた喫茶店や、美容室や病院等定期的にご家族や職員と行ける環境にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望でかかりつけ医を決めておける。事業所は月1回の往診医がいる。急な診療時も、ご本人・ご家族の希望を伺い受診している。適切な医療を受けられるよう病院と文章や電話で連携している	協力医による月1回の訪問診療が行われているが、利用者の中には、入居前からのかかりつけ医を継続している方もいる。また、併設の事業所の看護師にの他にも、ホームにも看護師が勤務しており、利用者の健康チェック等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に3回看護師訪問がある。体調不良や気づきは報告し指示を仰いでいる。介護職・訪問医と情報共有しながら適切な医療を受けられるように努めている。適切な処置や判断ができるよう学習を深めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書や電話で情報提供が出来る様にしている。定期的に見舞いに行き、関係者と情報交換し、現状把握・退院後の生活がスムーズに出来る様に努めている。退院時、指導を頂いている。その都度、ご本人・ご家族・病院・事業所で話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、管理者から話をしている。変化の度にご家族に報告し、今後の事を話し合っている。事業所の力量を把握して、現状の支援がどこまで出来るのか見極めながら支援している。その際、職員の混乱がないように、知識を深める必要がある。	協力医とも連携しながら重度の方への対応が行われているが、家族にはホームで出来ることと出来ないことを説明している。利用者の段階に合わせて、ホームでの支援、または、次の生活場所への移行についても支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や連絡体制などのマニュアルはあり、実践できるよう努めているが、実際に経験が少ない為不安が大きい。他ユニットとの交流を深めると共に、全員が急変時の対応ができるよう、定期的に訓練を行う必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回ユニット内で様々な想定で避難訓練を行っている。非常持ち出し袋もある。職員全員が避難経路・物品等周知できるように努めている。今後、地域の方への協力が得られるように働きかけが必要。	避難訓練をユニット毎に実施しており、夜間を想定した訓練や併設の事業所と連携した訓練も実施している。訓練の際には、消防署の協力が得られており、地域の方との関係づくりにも取り組んでいる。また、備蓄品についてもユニット毎に準備している。	ホームで支援可能な取り組みを検討しながら、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、言葉遣いや態度に注意している。間違いは職員間で指摘している。希望者に鍵を。自室やトイレのロック。トイレの声掛けに配慮しは、常に本人の立場を考え、誇りやプライバシーに配慮している	職員の言葉遣いや利用者の対応については、ユニット毎に管理者やリーダーにより注意喚起等が行われている。また、接遇に関する研修については、職員の段階に合わせた指導等の取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時のメニュー等も選んでいる。誕生日プレゼントやお祝い方法も相談しながら決めている。必ずご本人の想いを聴き、自己決定が出来るように働きかけている。1人1人の希望が引き出せるように日々努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時に寝たり、テレビ見たりして1人1人のペースを守り、無理のないように体調に配慮しながら、その人らしく自由に生活できるように支援している。ご本人がどうしたいかを把握し、希望や思いを最優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装・髪の流れ・髭・爪に気を遣っている。服のほつれや汚れは素早く直すようにしている。定期的に美容室に行き、希望時ネイルや化粧等行い、好みや個性を尊重したその人らしいおしゃれが出来るようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞きながら献立を立てたり、買い物・調理食事・片付け等全てを一緒に行っている。皆が携われるように1人1人に合わせて行っている。又、朝食時パンがおいしい方等、各々の要望に応えている	メニューをユニット毎に、利用者の好みや嗜好にも配慮して考えており、買い物や調理の際には利用者も一緒に参加して行われている。おやつ作りや行事に合わせた食事づくりも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1汁3菜の献立で食事・水分量を毎日チェックしている。摂取総量の把握に努め、その日の体調も考慮しながら必要な栄養バランスを考えて支援している。塩分・糖分に気を付け、状態に合わせて粥・ゼリー等提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、1人1人の力量に合わせて口腔ケアをしている。その都度、磨き残しがないか確認している。週に1回はホリテントを行っている。又、希望によって訪問歯科を利用し、口腔内の掃除や指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して1人1人のパターン把握に努め、トイレで排泄が出来るようにしている。1人1人に合わせてさり気なくこまめな声かけや誘導を心がけている。訴えが出来ない方は動きにも注目している。	職員は、利用者の身体能力に合わせた排泄記録を残しており、利用者一人ひとりに合わせた声かけ等を行い、トイレでの排泄につなげている。布パンツで過ごすことが出来るように取り組んでおり、運動をしたり、ヨーグルト等の提供が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、1日1回はヨーグルト・フルーツを提供している。排泄チェック表を活用しゆっくりとトイレに座る時間をとったり、必要時お腹を擦っている。散歩・運動を心がけ便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮し可能な限り要望に沿って支援している。1人1人好みの温度にし、ゆったり寛げるように努めている。又、菖蒲湯やゆず湯等季節を感じて頂いている。拒む方は個別や職員が交代しながら行っている	ホームでは、ユニット毎に利用者一人ひとりに合わせた入浴支援に取り組んでおり、利用者の希望等を把握し、入浴回数や時間についても柔軟に対応している。また、入浴剤の使用や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時にソファや自席等で休息できる環境作りをしている。疲労がある方には声掛けしベッドで休んで頂いている。居室の温度・照明等を1人1人に合わせ、眠れない方にはホットミルクを提供し、音に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報がいつでも見れる所にあり、効能や副作用等を理解するよう努めている。薬の変更時は連絡帳を使用し、職員全員が分かるようにしている。服薬時は名前・日付を復唱し、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシート・ご本人・ご家族の情報から楽しみ事を知るように心がけている。カラオケ・パズル・料理・洗濯等1人1人の趣味や力を活かし張り合いのある生活を送れるようにしている。大正琴や民謡等訪問もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩・モーニング・ランチ・月1回の遠足等があり、行き先の要望を伺いながら季節感を大事に出かけている。希望に沿い個別で買い物や喫茶店に行っている。ご家族と自宅で過ごす方や友人と出かける方もいる。1泊旅行も考えている	利用者が日常的に外出できるように、ホーム周辺の散歩や買い物等での外出の他にも、利用者の希望に合わせた個別の外出も行われている。また、ユニット毎に外出先の検討を行っており、外食や季節に合わせた外出行事が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーや個人の買い物等で支払いし、計算・出納長記入を職員と共に行う事はあるが、個人でお金を持っている方はいない。今後、外出先等でお金に触る機会を増やし、個々に合わせた金銭管理の支援をしていきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ、手紙を書いたりいつでも自由に電話ができ、話しやすい環境作りをしている。携帯電話を所持している方もいる。又、行事の招待状や年賀状等もご自身で記入し、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や食事時に音楽を選び流している。花を生けたり、廊下やフロアには季節に合わせた飾り・写真・壁画等が掲示しており、利用者同士で見ている姿がある。又、常に清潔を心掛け、こまめな温度調整をしている。ゆったりと寛げ、居心地いい空間作りに努めている	リビングはゆったりとした広さを確保しており、窓も大きいことで採光にも優れた環境である。交流スペースがあり、利用者が寛ぐことができる。また、通路の壁には、ホームの行事の日常の様子を写真で掲示しており、訪問者に利用者の様子を伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに食卓スペースとソファとテレビのスペースとあり、自由に行き来が出来て寛げる環境にある。気の合う方と会話をしたり、皆で遊んだり、居眠りしたり等思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのタンス・布団・仏壇・写真等を自由に持ち込んでいる。1人1人の空間を大切にしている。ご本人・ご家族・職員と話し合いながら、居心地の良い環境となるように工夫している。	利用者の希望等にも合わせた居室づくりが行われており、利用者の中には、入居前からの使い慣れた家具類の持ち込みが行われている。また、利用者により、家族の写真を飾ったり、自身の作品を掲示している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を下げたり、トイレも案内を付けており、混乱防止している。又、バリアフリーの館内で至る所に手すりがあり、階段でも登れるようになっている。安全で自立した生活が送れるように努めている。		